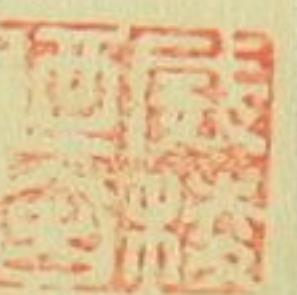


勢語臆斷

二

1 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0 9 8 7 6 5 4 3 2 1 0

勢語臆斷卷之二



大段
もくらまひりの女うりあう男うりあうあり女うりも
へうりうれはうりんとく葉う花のううふとれうを
とのううへやふ
やうううあううううううううううううううううう
みうううううううううううううううううううううう
ふううううううううううううううううううううう
まううううううううううううううううううううう
し女うりう女うりうもうううううううううううう
女うりうううううううううううううううううう
もううううううううううううううううううううう

らうからうやるふつかうする女のうねりはてをや
よ本よかれてふくよすもくらうゆてふれすも
まみうらうめぐとおとくらうのうがううれすもい
くみよかれもくらうよしやふくらうもきのまがくらうす
つけてほせうわせてすきか

妹義の下まようけてめよちうへとくらうくのふとくる

そー

世のやうくよむとよむとよむよもくとよむ
をくふきよまくハ拾き集よまうかくわいせキキやう
紅よ白よく白よく枝もくよゆうくもく
白角の後ハ紅よ白よまくすとうとやうの紅ひだむ
の枝もたうくわくかきくわくわくうとのい西毛のくくや

ゆうひうよのくもかくてもくくみどかくゆくゆく
くみくわくもくに葉やくのもも衣もよせてくよ白毛
ハ色のくくと目よくねく色くやみくかくあるくうく
とくたうくよゆく

をくまくよくくあく

くみくわくもくわくもくよくう早下のく
すうくく

紅よ白よくのあく角とわくくの袖うくもく

紅よ白よもね白よく入ゆく紅うよく人のたくく
白くの袖よくみてやくゆくくこのね色よくすくく
うくくとくくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
うくくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

う肩やると式おふくろの紅白いをつくる人の事よ
そめれくわくと向うへ袖香と意得んあらゆるを一
古今集

^{十九段} 花もつくわはなゆき乃袖のまきわせとわざる
じくふくまほくとある女乃りとよこもわゆるれどわ
ひきくわざるよりもやくかれよたりばかくとこうぢれ
女のわづれゆるよのうとくわるよのかともやひひく女
あはくへりする女のとよくと威徳す男のとよくへり
女のとよくと威徳すはる女の本からとわれとさく
やわらゆをかくはくとさくとまきはくとまう女のとの後を
ゆるをへれよくうひ方せす難のよとけ玉をかくへり
きくねやうてとのまつへきう女へをくわむる女よ後

達とももつてくわゆきよまことちくても口へふ
りをへるめよハスゆあくとく女へみ男とれまくとせ
ふやゑよめれくわくとくとわくめよせひくとくと達よ
もつまわく射古今集よ長能

うとものまよやもあらはすとうわくとやくとく
男へ女をわるよのうとむくわゆるえくみうとくと
へゆりしてくわくとくと豆阿切多われけのとく
くわくとくと

うまやくわくとくとくわくとくとくのうわく
古今のむまよとくわくとくわくとくのうわくと
はくとくとくとく車うくとくとくとくわくとくとく
へくわくとくとくわくとくとくわくとくとくとくとく

とまつてらまやかき玉をみてよゐの枕をばうす
天をみゆくまむくとよむもれんじくゆくうそひ
てゆるのよむとぞくをばうとうわもあうきくほお
かくのいぢひらでゆくとゆるのよふとく君のみづづくま
ふくまくまくまくまくまくまくまくまくまくま
ちののかくは海よりうけしりまくくもあせとまく
え今集ニ

梓うちもれんらーり年夕はくもあいゆすか
はあもれんやかくはまくもとくけく車今くらう
ゆくれかくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
ゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

らまやかめくのくとくゆくとくゆく山のせくやく

古今在る業年朝にちくまく行うてよのくとく行
くとくくみくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくと
くとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

是とあがむ方々もまことにうらぎのほ
音をこよどりにうかゞてわいきうそく
よてまほすへりうるへりうるよやうけり
にうれせむらのゆめうきとおて女のうみをう
ひやうきる

お経みてねりうちのあ生の赤きやうと、ア被覆ア用
ゑああたゞどる枝をまかずかくそ燐の紅葉より
玉葉立山年元よりあよわれ枝のゆりひけぬくらかくも
まみちうひのひのひくすりとくわくわくわくを
かかくとも女のひとうとくわくわくわくを
う色一後拾達難ニミチ放ちたんへやうて四夕か
アヌナシおひうち伏てよとけうあうる東華早歌

月夜

往くのふり音の時うん草木もれの毛うこめう
そぞううれいのそのひ京うきうきうきう
をすくそくもくわくわく

うのまくうううをはつきゆゑうゑうゑうゑ
われでやもれんよいつのううううふひつこくうう
えとまむひくらうてひのせみゆうううかくうう
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
のゆうとくとくとくとくとくとくとくとくとく
毎年梅者トドハニウツササトモウツセニノヨリヒトキミシ開友空蟬之世人君羊蹄春無有來ヒタカリケリこ
とく年とん梅とちうてみづとくのうとくのうとくのう
ちうううううしてまうかふくとくとくとく

セ一段

昔男女やいかくもゆるりてことむきうきう
かくもくらかくもくらむがの木とみゆ櫻とがくら又人
の名す賀乃まとかくもくらむに賀乃まくらてかくもくら
くもくらも通するぬ又賀乃まくらとらむくらつまくらと
いづれもくらの美をくら後又変すとくらとくらとくら
くらりあせり

さくはつゆるくらりきんいろからくはつゆるせすと
くらりしてくらりとくらりてかくもくらをくらりてくら
くらりとくらり

くらりしくまきく女のおとよるやくまくらとくら
とくらのとくらのうよんやりよなれくらくらりよありと
いづれもくらとくらとくらとくらとくらとくらとくらとくら

ひあらふとおでけりやうを一万里まよ

せすとくとくしておもせりやなをかうてくら
おでくふくらむくらとくらせんせのうくらとくのまくら
とく帖よひよひよひよひのあくとくくはまくら
とくとくあんてくらうるよくらうるよくらうるよくら
のあくらうりとくらうりとくせのくらうんすくら
りうり日をれよ消息をくらうりとくらうりとくらう
木とくらふよくらふよくらふよくらふよくらふよくら
よくらふよくらふよくらふよくらふよくらふよくら
へくらふよくらふよくらふよくらふよくらふよくら

のくらふよくらふよくらふよくらふよくらふよくら

うかくまほんかくれなかれよは庭の女みるわゆう
とくみかうていてすすあうは女かくうとおうくらうとくま
くらうかくうとくもふやくねどくうかくうつてからく
とくういくうむきてりううとくまくめゆんとかくの
とくうかくうとくれといふとくかくくもむくまく
あれかく入て

きくうかくうとくまくめゆんとけくわうかくう
てとくうくうとくまくめゆんとくうとくまくめゆんとくう
あらかくかくうりよを続いたの方とくへ吉の方
とくうすくうりよの西万葉集第四よゆと郎女うくと
くうしむえよひくじ長あよ

常呼ニ跡告行莫國小金門爾物悲良爾念有

之吾兒乃刀自緒

とあるよ似うひとをくうかくうかくうかくう何く灰
限量よせぐもふ不えぬひう信よ是よとけうふふとくよ
くはやう屋氏タネヨミもかくうかくうかくうめてもひく
れかくうととがくうわれりとつねん

うかくまほんかくう年自とくうた実うてかやとくし
それかくうとくもくとくいそくね事よおでつそれかくう
もむれせきわうくう年月りれてうひすじにく向たよ
おうてやべすくとくかくうかくうかくうかくうつれとくう
或後よ立ゆう見れとくうとくうとくうとくうとくう
とくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとく
ゆくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくうとくう

とひてかうえどり

人をいぢらひやすんふつとおもひてみえに
新勅撰集立すとくまのくわう人のよきをあね
いふとぞめやまとくらべておもむけのくわう人のよきをあね
ふううい女のうるからうひもとすよあともくわくまかげ
とももうりあて一役よくさりとあんせりやすんふち
やきくそなみへりされとあれとやまみるくへゆくと
育もゆくとせり後撰集は併勢うすよ

日とてもかけよへつるはふうてほくまがくもとめうまを
せすよよみれはかくくうらふくひくわへよやくん
せよよのくわくもととまゆうとくわくとくわくと
見えてよかくへとあらざれ方葉よ

後撰集よ

君うそ集よ

ふううかくよのみまくの面けよのくわくよのくわくよのくわく
うちみそく面けよのくわくよのくわくよのくわくよのくわく

六帖

かげてやくもひれとタれひむくわくよのくわく

文選日落遊子顔ノミガチ

こは女とよとくうて袖へとよてゆきくわくよのくわく

絶えずハめんとくまくわくよをくわくよのくわくよのくわく

くもくもゆくわくよのくわくよのくわくよのくわくよのくわく

のをすれど後悔しきれとよみてやまうり源氏と帝本よりしてくふやくもととてすりんやうき世の
ものせひとひうつらうとむれまうり

今かとてよすと草むすびとさん人のふゆをすゝ
新勘撫立とくさん正月とすと宣草なりか
おとがるよほとくわんとく人のよすとくまつこくえに
もみのひととよすにすれととせすまうれあう
ううとすくよほとくわんたわれもみとくわんと

よしむり

詩衛風烏得護草言樹之背

文選養生論云合歡蠲忿萱草忘憂

古今集云

六帖云

士卒の限つきとてあらぐのよすとくわんと

そ一

志すうとくんせねやうとくわんとくわんとく
續後撫立在名堂よりとく人とすれととくと
おとがりとくわんとくとくまとくとくはおとがりとくとく
とくわんとくわんとくとく

きよへまくわんとくとくはおとがりとくとく
志すうとくとくのうとくとくはおとがりとくとく

ち今立西顕しとくとくとくのうとくとく

ウタシヤセとやみのつまんを一もうけよやうとすと
とみにすすみをきくわれみあとよしむりうらへとくへ
ておどれまはまとさせにもよかくもえつんほくに
我とよやくのまことれをわうづはくもうわくくら
もれみせんふかゆくとくとくわくう或従よみやつまことすとい
きをくのむねううとよかくわちよあれやせと女のみ
うかがふてよかくよみかく

五

中まよひむかわせよかねくわくもうにううか
中ぬのうことせよくわくもうれてうれあてゆくみのうに
もじくて三うきひやうじとさんきめぢくわが乃
うつみとひくみはくもよみてくわくやう

五

とほりひきとねのうんやりにされへくくやりよ
とほりひきとねたひよくひきとねとくのす一そ
えくまくねのうよ成るくのう女のまよきようと写
の妻まよこすうりう後機集

二三段

笛竹のまよかねかくともあのまよひまよわく
むくもくわてまよかく中ねやまくわくうん女のまよ
もくくうくうすまもくうれく絶く中やり
うれくうくうもくうれくうれくうれくうれくう
新古今ゑ立く人をくりうたかくえくとれねばうく
うくうくもくくうくうれくうくう

とほりひきとねとくのうとく

あれりひいてく男も月もと我をちうくわくう文の

羽喜べ 拾遺集

片峯のね乃うみとせんとされくよ後よ歌ひゆ
あひまつらむやうと河原のね乃うみてる
後後撰立四是まくは事半終たわらまきて後ハトウカミ
もどきいよかとすとゆふつせうかくへて石井み良のよ
さう川原のねをとみとよりうととあえすとやくわ
と後とて絶へととよくわうとこれでまことわ
せうと歌と河原のねとくに用ようへわきゆあう
とわれとくやうももへおのがたひなとんかうとくとく
うと下りんと用と車のくわうととわ乃はれてと
つる牛の川そがれもゆへ用ゆきわるや

五載立四 送え佐秀行

まのとやおらひ川原のねをとわとくよ
射獲あらひて 挑ち侍教え孝

さうまとすとせと川原のくわうあはる

とくひうれとくめあひよめり

みおもてて絶へととよくわうとくわ

けてへりひあれくやくとくわうとくわ

とくへゆくゆれ乃事ともとくわう

おのむちくいへ一色よりすとてやらうへおもやくのあくと
六帖のとくのとくとあくとありやくよをゆくとくとおゆく
やからしの助役やうかきくとくとくのあくもおのまこと一の
おゆくとくとくわほくとくとくとくとくとくの
おゆくとくとくわほくとくとくとくとくとくとくの

のやくひあらはゆくはやうすへりうれうわくふみう

あら集めあら

くまかとれへぬあらまのれとほくとむらむら

うれもわくみよわけぬほくまく

佐多集批把たとく

きくのわけぬほくまのあらふくとくんがく

万葉集

はくみよくわすとくのれの百れとがくすと

う帖

れのれのむねとよあまとがまおーねるあら

そ

れのれのむねとよねとよあらむとあら

おあらとくとくとくとくとくとくとく

うとくとくとくとくとくとくとくとく

うとくとくとくとくとくとくとくとく

日本紀万葉集等と何怜とありて一をうれと

主段 いとも遠うて萬葉抄うていととふとおととまくわら

しのうりとくとくとくとくとくとくとくとく

せに作ぬれり業平の阿保親王男のくわく

きくのふとまなとわれとまなと年とくわく

うとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うとくとくとくとくとくとくとくとくとく

うとくとくとくとくとくとくとくとくとく

躬恒集

ふうけとおはぬよほらまのよまひまへうえひうう
井のまへてわむるばあやまうすくへ男も女も
まへてなまへ男の女のとこえめとありの女ひの男と
いはれねのわすれとまことせんうとす

井のまへてあてとへ男も女もコトのやぐまつともやけ
ととがりもよ門よう井のまへて行ひゆうりやうく
あらうくやうわねとまももうかお女ひのまへ
てかくうりてかりれきりの時かくやくともやへを
ひくすうもあくわびてともよらへすゑとあひの
きてもやのまへよあせとされとも男も女もけひみ
めひよまぬくよとくよねよくらうまくうえにう
せれーとくとづくやううとくめとづくされひうきれ

くらひて男のは女とええとふりふあらひ乃
つまらぬまわう有れりあまうりとくとくう
日本紀第二云門前有一井井上有ニ湯津杜樹
古今集よ

我門のね井のほの里へゆくやまくまくまく
まくまくやうの男はくらうかくら
けくらうせうれしきくまくまくまく
ほの井のね井のそとけつやもあさくらう井井と井欄
ひもうれしくせんまうをのくらうとあれゑ國集
ゑゑのね井の度へ成あんくらくとくまくまく
はね井の度いつくまくらくとくまくまくまくまく
井ももね井とふわう洋がとく法師のあつてり

翁井の井づかみのゆめくらすくわくまくはそ
あうてにきてくまへるうじとくらむよろしとく
さまは和うへてひきわからぬ井のまうやくまく
咸めんと今ハ井のまくもあひへ推量してりよりら
いこうふをとせよ咸めくすゑとよもとしりやうせ
おもむけ

翁井の井のとくまくをほくもあへやうのまう
に井の井のたくまくをまくもまくまくのまく
まく

女を
やをくやをくをくかくまくまくへと往く向くをく
やをくをくかくまくまくをくをくをくをくをく
らり變るいひくかくまくやうくまくまくまくまく

万葉

とくこう振ひ聲ひよひふきよくとくまくわく
振ひ聲ひとくかくまくまくとくまく妹とくもく
振ひ聲ひやくよくまくねくまくまくとくまく
又長すよくまくまくまくとくまくとくまくの後よ
かとうこのまくまくまくとくまくとくまくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
乃え恭紀よ詮聲くまてかまおどもまく万葉

妹の娘がすきへめのとやんぬ約わきよこなじやくみて
よもりみてつひよいのとくわくみうり

つひくとくはねねねとかくすとよくうをるらる

をく捨まえ

せ事とかくらむてもくとがくまよほくとくらん
ちて年くらうるやくに女にやくくわくうじくわくうけん
くくよるくくはくうトハく業年のくわくうてく
はくうトのくくく業年おほくにくわくう集よ
まくもくと豆くくふくと裁くくはくじくたかくう
名くのじくくよくすくくくうけくく業年よ
名とわくくとくよくくくうくくうくくうくと
くよくくくくくくくくくくくくくくくくくくくく

またすし男ううあり母女ううくらくうくくくく
一ひきくううて住みせかうくこうく威みけれハ昌えく
ういてかくうやくゆくひかくとあくすてううくくの
めひとみち女よりんみまくううとく帖すくみすく者
かくうむのこのへちぬわ波の高城郡は住男くらんで
をくうりよは男へあくくくうううううくくくく
よくするを

もくもくにりよくうくでうくやひくかくうのくよた
ゆすくうくうくうくうくうくうくうく

男も女もかくうにくよりくでうくやあくうくうく
方よつとよんと男のかくうりんかくうくうくうく
家のくうあよかくうりうを今集えくくくくく

る人のいとまへやうくほらうむるよは女もやうくお
もつちくわうひわひと等男かからぬ國よくどりひあきて
かへつひまよめくひうひとけをほき今のはせりの
あみのひからむうもよひやうてうんやうよがと
そばつくりてほくへんがすくうりうもくてもう
かのよへわく

もうれとはくの女行とおぐるきとおもなめてく
うれの男とくわうてかくやうとくわうとく
せんそくかくれりううくへりあるのくくく
せんとくくまゆくしておうく

もうけとくわうくもようくもようくもようく
乃宿とあてゆうとのうすとくとく

うくはくはく一くやうを今集まくすれとも
はくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
ありのはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
そくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
まくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
まくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
まくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
まくはくはくはくはくはくはくはくはくはくはく
成るやうとくはくはくはくはくはくはくはくはく

風すかねまうきはくはくはくはくはくはくはく
を今難下よくまようと帖第一帖雜風すお作もと
ふかく山のまよ二帖山歌耳出ふえうとふねう歌
ふね船と今後よ

万葉第一ノ事記

ワニは底おまくらは三田ふりうみえりん味うらりん
はす伊勢ふ山を御井よりあるすやうふまくあすは
三田ゆといそくえりうみのすむつげやくもまわすあは
とたきくわやうれび船乃らああやうき家ひらひと
感せらるく上弓の序もく下の舟とけりにまよど
えりあまやえりもくちあやうんとあまとありとてつ
まくとくととくとて馬ひち候るやく貞陵ひるひやく
共み比ねかくされをを負えもすのキヒツレケルと
はあどよもよあらすじへこめすとくすわらむとくめ
とくめゆは一そく男乃くとくとくとくとくとくとくとく
やう三田ふのけりき事ハ日本紀第三神武紀云皇

師勒兵歩趣龍田而其路狹嶮人不得並行乃還更欲
東踰膽駒山而入中洲是を經西テトモトナセキ
タク、ひくひくはすとゆくすとゆくすとゆくすとゆく
みくらはすとゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
くゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく
はまくまく捨遠集魚義るは家のうみをよしのゆ
くゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆくゆく

新勅機釋教不偷盜戒 法眼宗圓

ミスリヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカ
ミスリヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカ
ミスリヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカヒカ
もて新勅機釋教不偷盜戒とはすまほ後漢

書云靈帝中平元年張角反，皇甫崇討之，角餘賊在

西河白波谷為盜，時俗號白波賊，一万余

ゆうゆうといたる所に然ふとソシテテ多ひりまん

ふうふまくまみのタキシテテテテテテテテテテテテ

とあけとさくをかまうなくかるとよひて内へも

いすりうきま

まみめりれされり

太和ノ女を
揚内乃
女子抑奈

ひよくよくやくにあらわすやうめこひよくもつ
まく

和名集云以所以取食也和名賀比

けことむらうもとのよりきりをみてかうていすり
まく

教言云けこ
侵者又犯
節子飯もろ
器引筒子
ヨキスレ

大和わ従らまをひすゑられよとくみえへり

れ

きよめりらみどもとふかくーとちくーとくーとくー

き

きうてつまうみうとうまう

ゆうれとかの女やあくねととくやう

れ

ひ行くうえつをくらひとくふかーとあたま

きすとすまきすとまわうえつもとくへとあ

定家

れ

いの山ひもとすまきすかくーとあたま

きかくーとあくーと意とるてとじとま

くつてえつてよからじてやあくへん

業平はやさんといひやうへり

うちへてまよへりすきをもと

えふとれり夜ふたさわられたのやあまつらつる
すとあへにすりうなみのまつらありむら

まくまけりそく

業平のせつてあすれへ三ねおひかまみをうけり

といひけれと男どもすりうへり

山ササ假ヤハかとのよんすくらをもとまつへりよとくわ
もとわくゆきあるすたまくまくわくわをもとあ
ちりひくらきのいねくらよひまくへよこじらん
くちうくらきのよ

かくのうへにまつら業平はまをこそうら故

業平はまをこそうら故

よとく男のねくらよりよだくへくらまくら
令第三云其夫沒落外藩有子五年謂称子者
無子三年而改嫁今はまくらを

まくらを

業平はま

あひやうけられとあひとりんよく
いりもありきる

あひやうけられとあひとりんよく

ゆふふ年はまつ年は待ひてたとよひとくれ
候あくま四はのととひまくとくねとすとくすくわくと
契とも新枕あつと清くらうとひまくわくと

万華 茂雄らめこのまくらはまよ年のゆせどまでまくまく

業平はま
於業ヤマ
四二
金持キンシテ
金持キンシテ

うきよ本の
つまらぬ

ウキヨは身の外ときたまへておとやかなことあるべ

うひもへんとされ

桜うさむれう年とくわせ

よるはまひ酒のれりう拾ま神樂すも

うひもへんとされど桜うさむれう年とされ

日本紀ニ善めなどうけとあつふづくすく形り
すむ意いとくゆもすくふゆよ徳ひて秋桜づく
よもぐれく女のうさむれう年とあつふづくすく
の役のとくとよくうりうを男めすよくみのうれう年
み女とよくとよく事えきさくをともなくとくはうを
しくふ年とくわうをくせうらひれく我うを

ミナリハシマリモウリハシマリカツアリハ
サクモウルハシマリハシマリハシマリカツアリ
ハシマリハシマリハシマリハシマリカツアリ
ハシマリハシマリハシマリハシマリカツアリ
ハシマリハシマリハシマリハシマリカツアリ
ハシマリハシマリハシマリハシマリカツアリ

うひもへんとされハ女

桜うひもへんとされハ女
後後桜高ふよくとくへ高さるひもへんとされ
是がちめすよくとくへ高さるひもへんとされ
をうれよひもへんとくへ高さるひもへんとされ
うひもへんとくへ高さるひもへんとくへ高さるひ
うひもへんとくへ高さるひもへんとくへ高さるひ

万葉桜うあらうさむれう年とくはうを

樟うひけへちまつり方すとるこをさくわのあらうと
くらきれくをくとくすくま

後の男うれへゆくとくとくうなり

女うか年うくとくうかまうておひゆすとえめいはく
日幸死は後とくにとくうよもうてとよもうおひゆ

さよひかくらがり

高きのわうふよすすううり

わひゆくと見むくとくとくうよすとくとく
みをもよもとくとくうとくとくとくとくとくとくとくとく

ゆくとくとく

せうすうりうりうりふれしのちとくとまつてる

わひわねりうり小物ようじんか色集ういわねねねの名

皆何のわくらひはおの血くとおとおよかまうする
とくよほ山まよの四の宿と新制よよとくとく血くと石
よまよとよまよと

わひねりくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとくとく

昌代ノ日れて三苗ふよやうなま乃中よりかを
しまくぬせり女ねくわーとさくとかく形ヨリ
あひて男ノもいとアモモカクセキれハキム
たまそにゆの体モラカヌミ田のふもくとくら
女エー

三苗川先根とテアホ水引の生モチムコロトケ
トモムモテアシテアホトモアホトモアホトモ
ちテアレタコミムヒモスアトモスアトモスアトモ
ハナムニタマムアホトモアホの限アホトモスアトモス
ミクムモアホのムシムヒモスアホトモスアホトモス
ミホトモアホトモアホトモアホトモアホトモスアホ
廿五段ミホトモアホトモアホトモアホトモアホトモスアホ
ヒウトモアホトモアホトモアホトモアホトモアホトモスアホ

あうきるうみとよりひやまうる
わくもくわくぬわくすふくとうくわくうゑくう
えく業 実を悟てるくわく
れのゆきよ解フノホリ袖モテカヌホシモテアホ
アホモアホモアホモアホモアホモアホモアホ
モアホモアホモアホモアホモアホモアホモアホ
モアホモアホモアホモアホモアホモアホモアホ
色くわくあ、女エー

みかめかめとうとまねやうまくでらまむまく
を集ふまくこれとえわくみのうじくくわくありお
きくこまくもまほきまくとくや町をすくう筋言く
わくくくわくえふ車ひりんと海ね布のびきと

まくらにうなづきとうへこらざるはまよみゆく下乃
ゆもあす一浦は恨とむるうしのめがてぬすり
やのくちるおねやくとくの身とうかへて
かくわたりかとくれすとあられとみれの
あれはまのう形うんじうとうとくとく
すあへゆかひくとくいは撰集よ

あふてうきもいし海川かくねくやケたうがくと
かくとくのやくともおれをもとおれをもとおれをもと

苦家万葉よ
佗亘吉身之浦砥成禮々者共戀敷人之頻波丹起
後撰よ

古の地乃る原よりか鳥のむかひ立す

小大名集ニ

十六段
よひくのまみ魂とくわくうくゆくわくひく
あくをくふ五あくうりうけ女とえすひくうけ
ふとくわくうきく人のとく
五えきくうりうかとくをくひうえくうくうく
えくうくとくとくうくうくうくうく
お居くとくとくわくわくとくとくとくとく
うあくうもえくわくうくことくうくうく
あくうくとくはしきくのとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく
とくとくとくとくとくとくとくとくとく

乃すからとよしくあひてはせしとくとくほはくとままほ
わうれかくとくとくへくわうくのやうのままほ乃よみかく
かうむかうむかうむかうむかうむかうむかうむかうむ
やうくわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうくわ
くわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうく
くわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうく
くわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうくわうく

今もえこひゆう

おもねえぬまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
おまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよ
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま
よまよまよまよまよまよまよまよまよまよまよま

新ち今に

おおやれてやうゆふくまもんくとまくゆのくわん

續ち今に

定家

定義
内に鳥袖乃れと云ふ事はやうの御見え
續々春風解入道あらぬたゞ
人されぬ袖のゆゑのりはハるのゆゑかと云ふ事
はあよ袖のゆゑのと云ふ事ともあふる事あると
ふく袖のゆゑのと云ふ事ある事ある袖のゆゑかと云ふ事
はあよ袖のゆゑのと云ふ事ある事ある袖のゆゑかと云ふ事
はあよ袖のゆゑのと云ふ事ある事ある袖のゆゑかと云ふ事

寛喜四年三月廿日岩清水呑宮寺會

河原町左

後三佐範家

もれの處の又川田川ゆくおとを信もん

ち勝

信實

トシテ御の内乃清すらがましや袖のゆゑ

判者立家つるのあそくゆすもー右下句りまう
みとくひ見れよ遠はのる仰く角り
かみやねもとゆの傍よく袖乃くのはつやもす
もれの處のすき腰乃くのゆくやもす
腰もとれ袖のゆくとく含河井尼らの袖の角り
袖のゆくとく含河井尼らの角り車なり
しりと女のかみくわくとくもとすくもとく
ひ女のまくよふすとくらやうくとくのけよ
みくらとくがく

は袖つきとくもとくもとく男の後みも
つれりわく女くわくわとくもとくわとく
くくねにすとくらのくもとくわとくわとくの

さへみれかうかうかへてあるる
を一女のふくらむやまと一ゆすり貫貫とけ
里竹あらわらうかと付てされどもよみうる
よみのまこととまのやう水のまとはがくらうと
くあらり

万葉四

サケニ醉テ
吐逆ロニ用
意ニスキスラ
ヤラントナリ

延喜式主殿寮式云三年一請貫簷一枚うつよ白
多乃也ゆいぢんとまゆううぬよし白よのく
ゆううぬみちんと相やくあり

我くらわよくこすものとせり水の下もきたり
これくらはかひれりうれしもじよきてわよしあ

形古友判
けきへよ今ハ
とくくのう
ふはほの急
そまやく使

よみのまことの下もよくあらぐのまよめよ
あらううきく集くらとのまよすとののやうあら
就きやくうじしてみ底よまつてみれへれよあら
東々集す
ゆく川よねくやくとみ底よみ底よみ底よくあれりけ
拾遠とみる
四月レ新そよみよやうけきよみよきよみよく
とくじとかのこらうりうれしよくめうきよく
ゆくよみよやくよくれ様よく下もよくうよくよく
女のまよみよくからねよくのまよ下もよくよくよく
つみみ新よあらと男よみよくかやくよくよくよく
ね様よくふの下もよくてひよくよくよくよくよく
よみよのまよみよくよくよくよくよくよくよく
よもよくよくよくよくよくよくよくよくよくよく

六八段

しり色みれりうきり女ひすすまうれと

下六九段てかくらふれとふじめよえ水きにとしれすねと
下六九段てかくら何とかくらわふこくくへき移移
ゆきかとほくらん移移かくらすてるくらう取
とらぬよまくらうとらう後ハ得からくまよ冬着^{カタ着}はの
ねうらうとしとしもひわどく水桶^{カタ桶}よ汲水^{カタ汲}
きくあくかくらうわくとちうしめとお
みく入くみぬくあくとくちきうとくいれづくのよる
くあくらうりあくとくのうりうくよとあれり
後撰花^{金葉}一まくらあめーとのくがくまくあくみそくま
同 むすひを一かくらうたあつせぬまよのくとまし
くまのりぬへかくまのめくわくまくうてばくまくまく

六九段しりもまみれ女脚のね方ひよみれかくめーわうけみれ
たりうれ

其ゑみれ女脚ニテ至名うり貞觀十一年貞明親王寿^{シテ}言
ミセリムニテ至名脚後半^ハ年ニ女脚と申せたまはをま
み女脚とはうりは駕^ハいと申^ハうれのねくえをま
あ^ハ原^ハ禪^ハ閣^ハ脚後半^ハ年四十駕^ハと申^ハの女脚とすふ
うりとおでててこの女脚ニテ至名うりそれもすら禪^ハ閣^ハ
四十駕^ハと申^ハをかく^ハ花^ハの時^ハと花^ハの駕^ハうり
紅葉^ハの花^ハとみまみれ駕^ハうりや一わうけみれー
くらうり

白氏文集尚齒會詩序云時祕書監狄兼墓河南尹
盧貞以年未七十雖與會而不及列

花よりぬおけむれりもせうもくのそひよりすまし
はりゆくの無歌人やくに嗟歎讚歎りとあかきとやう
無歌も私歌も共ひてうるさみびつては長良とつれて
三河をうもうれかくもわれをくわくすれどりとれどり
たりあせん

+ ちよてのあらわす山のそれ

けりとれりとすくすくとくのむといしと
いふと自とつとやうはあよたきのむとつて下へもまの
女ねけお事としにばやのめりとくとれりとけ
くもとと無歌の意やり ○ 真名集一版
昔男女乎盜而徃道尔水有アル
所尔而夫将呑哉与問尔領拜計禮波結而為呑然將而
徃尔率尔無墓將成壯士本所方注還尔彼水飲志所尔而

古今 宝琴
まづのまづと
まづくせざる
まづくせざる
まづくせざる
まづくせざる

大原哉堰之志水尾結上而飽哉与問志人者何等波
しり男もつてくらうる女のまづく
万葉より小學どもくとももくともよりやのまづく
人びうるる

ゆくものとくらむをとくつんのあくまく
新あ探急五よくくまくひが新探のとくくまくひが
くもをくもとくもとくもとくもとくもとくもとくもとく
山あめぬ内くわくわくくらむつねりすとくもく
くもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく
えんくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもくもく

ヨウラウルトヘサキヤウミの日幸紀よ祥せよ云

もうさんすむら行きまつるたうわうちめりけふ
りくはなてすかしもるまもおひれへうとま
みりそよぎしてまつすよまくいわくくうのま
りうけ事す

あみたけのあくまくまくらぬとじあねをうも次
ほもじんくまけたとまのうとくらゆうじう
うゆべの日あ紀よせりよ新のすとくまめり
古事記垂仁段故科曙立王令宇氣比白因拜此大
神誠有驗者住是鷺巢池之樹鷺半宇氣比落如此
詔之時宇氣比其鷺墮池死又詔之宇氣比活尔者
更活又在甜白檣之前兼廣熊白檣令宇氣比枯忽
令宇氣比生尔名賜其曙立王謂倭者師木登美豊

朝倉曙立王登美二
字以音

えらんとくんといのうもわくじわるまくへとくすく
ひのうふくらむじり源氏おまめにがふよんてんまのうけじ
きのとくまくじとくやままよとくとくすんま
うてほくまくとくけいきかまくとくまよちのゆ
人のまくわまくわじとけりねずん負をまくわう普門
品呪咀諸毒藥還着於本人と云意いりとりてて
おどまくまくは女ゆのうのうれきとくまくまのう
くはくはくかとのうとくねくまくわく
うはくはくし女もみく
しづるーー

おひのりの女や——こうわくま
手——み手——みとくまをかへしとくまよしもん
きの日本紀万葉共の倭文とまう神代よりわる布は
名うね松みちすもやのきとあり奈良事紀と復念
倭文遠祖天羽祖雄神織文布云萬葉第三赤人社
勝鹿真間娘子墓と云ふとよあれうもすにもすと
ゆうさんくわきうとせす解ふとむつ日才一もすと
のものとくまをとありさくま

やくはちのをとまことやくとよまことうりあらじまく
ちと万葉よ倭文帝とく神もぬらうらてあらねま
アモウムト延喜式諸祭の倭文もわらうく
縫うめうとくわれとせよわらううりうとくまをハ麻

環うりきよせとくらう布ねぐくひされとくらう
せとやねりといふとあは序よへしるものいはりう女よ
くもとあく付よすとひもくもくとひもくとひも
くねすとひれとひすとひすとひすとひすとひすと
うへりきよみくもくとひすとひすとひすとひすと
民の名ねよそくぬよすとひすとひすとひすと
いふひるを——

といふとひれとひれとひすとひすとひすと

し——男はくふうくふ御よかへりう女

革屋姑里業平の領地をう後よそとひすとひすと
部よ芦ゑひわうくふうくふれう女のをひる——

うむいれりてやまとへりとすすきのれの國
まくゆをくわすりはなむりかはゆてへみに
とのにて侘くよきことくみれてあらう
わくきくらむる塙のゆすよみよみとせやく
まくゆきよめくらむる塙のゆすよみよみとせやく
うまれよつはすみおとすくとくうじうけ
のちくらむくすくわかれたまくわりてよけ
くすくわきよ

十三
又長歌秋思
十三

うどんも乃浦の安慶船あたからくちや
おえいよくは波船の船波すらくすら

りのいやあくよほもすみひてこれまくちが
万葉

かき
こくまほくまくとくくみすとおやくまく

落後機立てくくみくとくくのまくえ
えみとくいりとくくくくもくとくくとくく
にのゆくわくみくくくくくくくくくく
りくすくくくくをくくくくくくくくくく
くくくくくくく

いふくくみくくくくくくく

ふる集え楊氏漢語れ田舎児和名井奈
加比止

三十四段

のやまくまくかへてせとち審判と待まつたし
しつとまとうとひそりうるくぬまく
道はえよとねばとねよらふてひまよりけくあらが
いがえすへきむよれすくらう物をとれ万葉み不和と
までもとてあらう續日本紀もあらうとまくとづき
りうやまとひそえとみまくとくいだえもしもとすと
行をしよはらふてうるのめぐらのゆきひでけすと
ほよ歌くじり

宿
いとえよとまきひそり世のやとけうのゆきひ
日
いとえよゆくかすきかえみゆきやなれとくもく
源氏須磨よ中納言おもとえよかふくらむみば
くされすわれわくわく

あもひくまくかへるうるく

日本紀と安持とむだとくわう方榮一

よもあひてうとくかへるうけふくわうわくさうく
是等が事と御自らと云相がりゆまうてて源氏も須
み無加スヨ源内侍、老てのゆきとよもむのとみやふえ
たまもくわくわくまよとふりうんすくうりとせいや
ゆうくわくわくのとゆ(ハ少くかげとすくとれむ
せくやくすくよみいなよくまうとおやくわくよがく
つれもくわくまよくはとくめよもよみくはとよ
てきうとうりうとうりう自己のゆく
三十五段
しつくわくわくもくとくとくくぬまく
さの猪とうとみうとみうとじまうれひをとせむかうくとく

ゆきゆくらむる緒よりはあへ方を西
ふけぬとほ徳よりてじよだわうてのなもひともやも
はすとすうり被集み法緒とまうり後ものゆくを
すあまを貰之

まくわくのまくわくわやすともがくともうん
清少納言
上冰ゆくいするをりむかく日ゆよゆくかくは
かく絶きらう事なくかくえりあくられへし
しり忘れわくわくひくちう女のまくわ
ひとまくわくわくはくわくあくのまくわくまく
谷せくみねまくわくふかくたえんとくよみやくよ
見か万葉集第十四卷ニ

言せくまよくらむる緒人のふきもくわく
はくとくかくうちのむくせに作りそくくもくく
くもくくかくもくくうとくれともせとれへた
却くちすくもくもくひくすりよくよくのむは
くもくよくわくとく万葉集

十二

たなせくまよくらむる緒人のふきもくわく
詩周南云葛之覃兮施于中谷維葉萋々女蘿本細

草抽莖信不功憑高出嶺上假樹入雲中

しり男のぬくわくうく女よわくとくうじくわく
くやわくひく

うしうとくわくわくあんやくうく捨憲よくめじく
里をきこむわくわくわくわく

女郎をじしやかとすむふとすりてくらき
おあくとまことひとまうらとおはすよすまむちとこねと
彩助振舞とひりとア波とふくら花の匂花のまこと
ゆももし故まくタケヤシムもよわうとけの様のくらも
くらかく花の色もくらかくくらか女郎をすくわと
うさやすんよとてくまよとくまきくまうからとこと
まくまくとくまくまうり奥義お云喜撰式と混卒
歌安倍清行相臣くわん

だるのタチキサなやすれまみせをくわー^{六帖}
すくまくひねよてくまくもくよもくまくはく

か色一

ゆうりくむくくとくくとくくとくくとくくとくく

ぬりてむすへと組とひりておひれへたすまくま
はすと下むるとすと組とく
^{三十八段}
もくれおまくまくくとくくとくくとくくとくくとくく
とくくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく

是の方事よ

うれのまくまくとくくとくくとくくとくくとくく
せくくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく
とくくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく
後とくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく
とくくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく
とくくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく
とくくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく

とくくとくくとくくとくくとくくとくくとくくとくく

嘆ちき氣すくまくみとはさうよろとそら
車とけふくめもまくひきくせゆはくかまの
とやまくみくとくわう

かる

わくわねの世のくぐれふともひくとくひく
ゑもくとくとくとくわねをせうむくくとくつるく
もりくさうのゑみ跡とくわゆくふくらとまよひの

三十九段
あうきり

しり西後ののかくすくおもへゆく
淳和天皇諱大伴桓武天皇第三皇子也御位の後
西院みおもへゆくがよ西後帝とて西後の四條の北
たきみおもへゆく淳和院とておもへゆかたの家ゆく

もくとくみゆふくことくにゆまくうけく

崇子内親王母橘舟正四佐上清野女承和十五
年五月十五日薨十九歳今年六月嘉祥と改元
ゆくれい嘉祥元年ゆく

まのくくわんじゆくわりくとくみあくわくのと
わくわくくとくみわくわく女車よわひのう
ておくわく

まむくわくわくわくわくわくわくわく
ともよくとくみわの化法在嚴法事をとくとくとくと
わくわくわくわくも詩云有女同車

いとくわくわくわくわくわくわく

久く待されても葬送のおもへゆく

うちかはくやくぬつうきるわへとふ
うちかきてくわくわくまよりもわくとあくまく
くわくわくみづうきとくわくとくわくとくわくとくわくとく
うくとくすんじり

河失むちとろのれくほのつくるとくへ
岐嶽天皇。定。楊良大納。至。舉。順。文德實錄三代實
綠年ヌスミテリ。系圖トニ行ヒ
されもおとすんくわ車と女車とてとくきてとかく
あらえくあ

やねせくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
女とくるふよくわくわくわくわくわくわくわくわく
あいとくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

おぢよゆくわくわくの角のうくわくわくわく
くふあさうれよにくわくわく
かのくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
あうくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
わくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

車をうくわくわくわくわくわくわくわくわく
くのくわくわくわくわくわくわくわくわく
うくわくわくわくわくわくわくわくわく
氏言をくわくわくわくわくわくわくわく
て済民がくわくわくわくわくわくわく

とけ居うくわく

いつくはかくわくわくわくわくわくわく

れよ耶えりうらあいふるへとましとふ傳へ信すれ
たんまわゆーとね玉えんはさんぞれわく下
うつゆうとてりけつへやくもとみけとくえくと
きそくまきこゆくとあるはあその虫そむくわな
じうのやくすゆとくまくくのちくともわうお
ようひそれがるのあくまく後すくらうと行はよ
ねえりくはみますとくさき

わのまとの色あはれすくはあかとのをなれ
よもらきのまとの色あはれとめのをなへ天下第一乃
好色くとくとくおうじゆーりふとあうじゆくわうお
くう車よりすくまのよもせくはまくも泡もくく
ねすくがくくとくまくとくまくはまくはまくはまく

とすと彼およ万葉のうへてまくわじよことのく
ゆりよとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
不育とまくまくまくまくまくまくまくまくまく
氏およとくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
まくまくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

西色の志くらつ

いふるへきくようかげらわくのひゆ

順ハ永親のまくまく在世ひれへはあ行天原のまくまく
まれた後よあまくはだりう等のまくまく見斗の後

1定ヲ
貞トアリ

おののまがるやとつとくれ事あまされに
うへてはこのひわへはつるうと内親王のゆあ
よもよひとすり肉親王とするう父をとする
こひんべゑとげくとくひり城よほつらみゆく
嵯峨天皇源定正三位 大納言 至 徒四位 右京大夫 舉正六位上 順位上能登守

一説
殊一

四段

能登

しのつた男けあくわぬ女とぞひり

ひくわぬ女とぞひりおおきなむはま
ゑのゆよおきるおすりかくわゆう
ゆくねやくにとくとらはばなよ恵よしの
じやくくわぬ女のり

さううとうわやうておもひりそつとくはせ

くわくわん

もうちくはゆきかくまとかくまゆまく
万葉才子は質良とまうみの良の能名とゆくと
見ゆくとくとくとくとくとくとくとくとくと
引合は質良のくわくは才士よれ情進も情在とも
まうみの義利わうせんかくとくとくへかく紫平
のくわくかくまくわのめられむすのくわくわを
くわくわくわく

五三

日出
大志のつむきにゆきんゆにあとうかくとくとくと
おおきくよまくわのくわくわおとおおとおおと
万葉
よおのくわくわくわくわくわくわくわくわくわく

サヨフハ
ミガコワナリ
俗ニサウコワ
イヘナリ

カムソヒナムヒヤヤ

シノムルカホヒヤヒトモレキテアシヤタヒシヒ

カムスル

ハシマレハタマツクルカシムタテマツマシルノ
カシムルヒタマツクルヒテタマツクルノシルアシムタテマツ

おうきくまうふたちのまへくらんきりうつんま
けむちむなまへあわあわむくらんましげ
めそいてみ

おうへは親しますとまくらくわやうまう

とととととととある

いづみかみれのかくしゆうめりよがくしを
續後撰立一葉草胡にち帖の初のまくらんて
とお作者草手平ひり續は撰え載つもと帖の
まつらをつまうれのかくしゆうめりよがくしを
かくしよあくらもと帖アーティクルヘねくらんと
うくらくはくらくはくらくはくらくはくらくは
ありふるもあくらうやま名本ニ安逸お付而

何所至而逐者志津流与人問者不飴別之後河至而

とくまくまくまくまくまくまくまくまくまく
ひきとくまくまくまくまくまくまくまくまく

業よせとえいきうやうあやか女の親ゆう

なうやうてまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

まくまくまくまくまくまくまくまくまくまく

至りしもみまくられすかわきひとひまう
つまおにすすとふあふしや

さのりまくまよしてりのめくらすのくまう
せくのとをもくもゆくなどうひへくのひは
くまくとくまくとすくとすくとすくと
四十一 ゆくわばくとくめつ道とくとすらあてすよる
むく女くがゆくとく

をむをまうしよく

もくはりとととのまくら
まくらまくらのとくらとくらのまく
とあくとくらやうくとくらまくらまくら
妻の時くらやうくとくら男のまくらとくら

性姓元早のくわん下なゆ
もくらわくなら男くわくら
かくらくらを男おゆくとおぬくら
このもくらくらくら
やした男くらとくらのくらくらのくら
てくらくらくらくら

おを男りとくらやくら男おゆくとくら
あくらくらのくらのくら集云楊氏漢語拾三
薄文及和名字信乃 岐沼一名朝服 著襪之給衣也

くらくらくらくらくらくらくらくらくら
くらくらくらくらくらくらくらくらくら
あくらくらくらくらくらくらくらくら

あくらくらくらくらくらくらくらくら

やう破の字樂む日幸紀やうめうやうと
くは中黒なり

せへくもやくてもかんよがをあり

かくもかくのまみとわすれまよふもくら

しきへなのまちあひやうむー

かくとがねわくやう男にくわくわくわく
りくわくわくわくさくわくのまみとえくわくわく
くわくわく綠陰やうと後の花やうお照へた今せと
まかとまくとまのけほどくまくくさくやうにまくわく
しくわくわくとまくわく花もまくわく花やうまく
ち今難ニ業すれとれと貼る壁やうまく本もわくれ
やうけまと育

かくと
まくわく

むくわくわくわく

見は今よレの一かねよくまくまくわくわく
ととくわくはくのまくわくわくわくわくわく
種やうまのをまくわくわくわくわくわくわく
せくわくわくわくわくわくわくわくわくわく
難波のあーみくわくわくわくわくわく
りくわくわくわくわくわくわくわくわく
象書のゆくわくわくわくわくわくわく
かくわくわくわくわくわくわくわくわく
うはあくわくわくわくわくわくわく
くふくわくわくわくわくわくわくわく

四三段
し

くふくわくわくわくわくわくわくわく

きくはまうのまやうにじるまわりうり
とれどもまゆのときうつぬけへくふ
きくみやう

後撰

夏虫あさかねがまくとまきぬかとほ
あくつむれいわくうぐく
あくさかまくとまきぬかとほ
つうじたう

あくくくくくくくえわすくうく
あくくくくくくくしめくうく
なくくくえわくうくうあくく
はくのくくすくうくうくうく

唐詩文法あくまくまくまくまくまくまく

のくくくくのくくくえわすくうく
つてててててててててえわくうくうく
ふくう三日もくうくうくうえうそかく
あくうやくくふくくかくじとほくくら
射あく立五葉平歌を射あく立五葉平歌を射
きのくかくくよよよよよよ

是も作志のゆう

勢はる所をまこと

○勢語臆斷二

〇四四

